

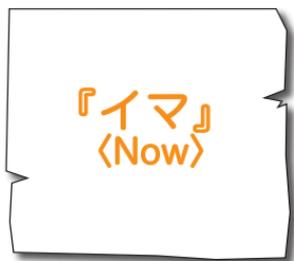
7 THE 7 FRAMES FOR ALL LIFE

7つのワクワク枠

となりのコンパス②

第2フレーム

『ミライ』
〈Future〉



『カコ』
〈Past〉

木岬 さんぽ
KIMISAKI SAMPO

“ 幸せに
生きるんじゃぞ ”

愛犬ランプベリー、おじいさん…とふれあう
少年期さんぽのフルーツフル成長物語

SAMPO FRUITS



となりのコンパス②

『カコ イマ ミライ』

プロローグ

33

ランプベリーは、そばで昼寝を始めていた。

「ライフが変わること—— それ自体は、決して恥ずかしいことじゃない。それは、ある意味、生きている証の1つなのじゃからのお」

「生きているアカシ——」

そのときは、その言葉の意味が、さっぱりわからなかった。

「——それじゃあ、今のおじいちゃんにとってのフレームの活用法とか、プチ・マップの作り方は？ こう、年の効っていうか、年齢者ならではっていうか、——そういうの？」

「ん？ そいつは、おまえさんの将来の“あとのお楽しみ”というのが1番よいように思うんじゃが、——どうじゃろう？」

「——。 あとのお楽しみ——」

「そうじゃとも。 ——うむ。では、そろそろ第2フレームを紹介しようかの」

「よっ、待ってました！」

「例の地図を持ってきたかな？」

「ああ、もちろん」 おじいさんに地図を手渡した。

「——あっ！ 思い出した！」

「ん？ 何をじゃ？」

「あれ、ほれ、それ、地図が、第1フレームから生まれたペーパー・コンパスが、——しゃべった」

おじいさんは、パッと心笑んだ。「そりゃあ、ラッキーでありがたいことじゃ。よかった、よかった——」 満足そうな笑みを浮かべながら、話すおじいさん。

そう言われてみれば、何となく、そう思えてきた。

おじいさんは、地図をゆっくりと裏返した。

「うむ、では、行くぞ？ 第2フレーム——」

「ああ、さあ来い！」

音楽——テーマ曲イン
♪ハーモニー Harmony
タイトル流れて。
——音楽フェード・アウト

34

第2フレーム

『ミライ』
〈Future〉『イマ』
〈Now〉『カコ』
〈Past〉『ミライ』
〈Future〉『イマ』
〈Now〉『カコ』
〈Past〉

『カコ イマ ミライ』じゃ、^いそう^いながら、^ち地
^ず図^{うら}の^{した}裏^まの下^{なか}は^じじ、^ま真^{なか}ん^{うわ}中^{じゅん}、^{ゆび}上^{じゅん}は^じじを^{じゅん}順^{ゆび}に^さ指^さした^おお^じじ
 い^{さん}さん。「^{だい}これが^{だい}第^{だい}2^{だい}フ^{だい}レ^{だい}ーム^{だい}・^{だい}フ^{だい}ォ^{だい}ー^{だい}・^{だい}オ^{だい}ール^{だい}・^{だい}ラ^{だい}
 イ^{だい}フ^{だい}じゃ」

「え！？ でも、あまりにも、あたりまえじゃない？」

「^{おも}そう^{おも}思う^{おも}かい？」

まあ、^{すく}少^{すく}なく^{すく}とも、このフレームも、さまざまな“ライフのあり
^{かた}方”^{おし}を^{おし}教^{おし}えて^{おし}くれる。しかも、^フレー！^フレー！^フレー！ フレームの1つ、
^{わく}ワクワク^{わく}枠^{わく}の1つでもある。じゃから、これも、^{じゅうぶん}十^{じゅうぶん}分^いに^い意^い味^いある^いフ
 レーム・フォー・オール・ライフの1つじゃて——」

「——」 . . .

そのような、^{きたく}帰^{きたく}宅^かして^かからの^{かいそう}回^{かいそう}想^{もの}が^た物^た語^たる^たよ^たう^たに、この第2フ
 レームに、^{しゅうじき}正^{しゅうじき}直^{もの}、^た物^た足^{かん}り^{かん}な^{かん}さ^{かん}を^{かん}感^{かん}じて^{かん}いた。

でも——

^{あた}新^{しゅうげん}しい^{しゅうげん}キ^よャ^よラ^{ぼく}が^き出^き現^とする^とだ^とら^とう^とと^と予^と想^とした^と僕^とは、^き気^とを^と取^とり^とな^とお^とし、
 『カコ イマ ミライ』を^ち地^ち図^{うら}の^か裏^こに^こ書^てき^も込^もみ、^て手^もに^も持^もった。

ミライ
イマ
カコ

すると——

「^{ひさ}お^{ひさ}久^{げん}し^{げん}ぶ^きり^きで^きご^きざ^きい^きま^きす^きう^き〜♪ お^{げん}元^{げん}氣^きで^きご^きざ^きい^きま^きした^きか^き〜？♪」

コンパスの^{こえ}声^きが聞こえた。

「あれ？ ——コノヤロ、コノヤロ！ ^{ひさ}久しぶり！ あいさつもなしで急に消えちまうんだもん。さびしかったんだぞ」

「^{ぜんかい}前は、あいさつできなかったでございませう〜♪

^{じかい}今回は、あいさつできるでございませう〜♪」

「——あれ？ キャラクターが、^{ぜんかい}前回と^{くら}比べて、どことなく^か変わっている^き気がする」

「その^{ちが}違いは、^{だい}第2フレームが^{しめ}示しているでございませう〜♪」

「それって、もしかして—— ^{いま}今は、^{かこ}過去や^{みらい}未来についても^{はな}話せるとか？」

「ラルルレロン！♪ ええ、そうでございませうとお〜♪」

「おお、^{ぜんかい}前回よりアップグレードしているんだね！」

35

「——^{おし}教えて、^{おし}教えて！ まずは、^{かこ}過去の^{こと}を——。君が^{きみ}知^しっている^{かこ}過去のこと」

「えーと、^{だれ}誰の^{かこ}過去を^{はな}話せばよろしいでございませうか〜？♪」

「え？ じゃあ、^あ岬で^あ出会った、^あのおじいちゃん^{かこ}の過去について、^{いま}今は、^{はな}話せる？」

「はい、^{はな}話せるでございませうとお〜♪

^{さくねん}昨年^{しよか}の^あ初夏に、^{かこ}お会いした^{おも}過去の^で思い出——

それから、^{ちい}小さい^{ころ}頃、^{おや}親に^き聞いておりました^{かこ}過去の^{きおく}記憶——

それらの^{りょうほう}両方とも^{はな}を^{はな}話せるでございませう〜♪」

「——え？ ^{ちい}小さい^{ころ}頃、^{おや}どんな^きふう^きに^{おや}親から^き聞いていたんだい？」

「はい。^{かれ}彼は、^あわれわれ^あの間で^{せんぞ}先祖^だ々^だ語り^つ継がれてきた、^{でんせつ}伝説の^あスーパー^あスター〜♪ ^{えいえん}永遠の^あビッグ^あヒーロー〜♪ フレーム・^あマスター^あの中の^あフレーム・^あマスターでございませう〜♪」

「フレーム・マスター？」

「そうでございませうとお〜♪

フレーム・マスター—— それは、フレーム・フォー・オール・^あライフ^あの意味を、^あよく^あ知^あっておられる^あ方^あでございませう〜♪

^{さくねん}昨年^{しよか}の^あ初夏、^あ初めて^あお会いした^あときは、^あ非常に^あ感動^あしたのでございませう〜♪ ^あお話し^あもしてくださりましたでございませうとお〜♪

「——」

^あ不思議^あな^あ気分^あだった。

あのおじいちゃんが——

いつも^あ昼寝^あしているらしい、あのおじいちゃんが——

^あ実は、^あすごい^あ人^あだった？

36

「おじいちゃんは、^あずっと^あ前から、^ああの^あ辺りに^あ住^あんでいるのかい？」

^あ深く^あ考え^あずに^あコンパス^あに^あ尋^あねてみた。

「そうでございませうとお〜♪

これまでの多くの年月は、今と同じ家で、愛する妻と一緒に暮らしていらっしやっただございますう〜♪」

「暮らしていらっしやっただって—— え？ 今、奥さんは？」

「数年前に、お亡くなりになられてしまったでございますう〜♪」

「ええ！？」

音楽イン ♪ Wishes In Sorrow

あの陽気なおじいちゃんが、奥さんと数年前に死別していたなんて——。 . . .

それでも、希望を見出してショックをやわらげるべく、質問を再開した。

「子どもや孫たちは？」

「はい、赤ちゃんは、授かったでございますう〜♪」

「いいえ、赤ちゃんは、授からなかったでございますう〜♪」

「え？ どっち？」

「ご夫婦は、赤ちゃんをとてもお望みになりました。妊娠するという形では、何度か授かったでございますう〜♪」

「抱っこできる赤ちゃんとしては、授かることができなかつたでございますう〜♪」

「——」 ええ！？ . . .

ショックがやわらぐどころか、さらなるショックを受けた。

どんなにか、つらかったらう？

どんなにか、せつなかつたらう？

どんなにか . . .

あのおじいちゃんが——

あんなに陽気なおじいちゃんが——

これほど深い心の傷を負っていたなんて——。

「あの丸い石は、ふたりの間の子どもの代わりにしましようと、生前の愛する奥さんからのプレゼントだったでございますう〜♪」

「——」 . . .

「彼は、子どもたちや若者たち… み〜んながみんな、めんこくてたまらないでございますう〜♪」

「——」

「彼は、子どもたちや若者たちと出会ったり、道ですれちがったりするたびに、人知れず、“幸せに生きるんじやぞ”と心の中でつぶやいておられるでございますう〜♪ 昨年、岬であなた様と出会われたときも、例外でありませんでしたでございますう〜♪ 少なくとも、立てた親指を前後させて、頭を少し傾けながら、心笑みかけていたときも、そうだったですう〜♪

こういったことに、われわれが気づいておりますことを、彼自身は全くご存じないでございますう〜♪」

「おじいちゃん——」 おじいさんを見る目が大きく変わったのを感じながら、そうつぶやいた。

おじいちゃんの過去を知ってショックを受けた上に、過去や未来について話せるようになったコンパスとの会話が少しコワイような気がしたこともあり、しばらくの間、コンパスとの会話を控えることにした。

音楽フェード・アウト ♪ Wishes In Sorrow

37

それから数週間が経過したある日、思いきって、コンパスとの
会話を再開した。

「それじゃあ、今は、未来についても何か話せるのかい？」と僕。

「はい、話せるでございますう♪ さっそく、わたくしの将来の夢
を、お見せいたすでございますう～♪

岬にいた彼、フレーム・マスターの中のフレーム・マスター公認
の夢でございますう～♪

心の目で、ご覧いただけるでございますう～♪」

「え？」・・・「——あつ、見える！」

音楽イン ♪ Soaring Up Into The Sky

子どもらしき小さなペーパー・コンパスが1枚いて——

全部で3枚のペーパー・コンパスが仲良く空を飛んでいる——

それは、コンパスが、結婚して家庭を築いているらしい内容の
未来のイメージで——

「うわお！ 結婚するんだね？」

「そうでございますとも～♪

好きな相手がいるでございますう～♪

彼女と、ずっと一緒に生きて参りたいでございますう～♪

楽しみでございますう～♪ ワクワクするでございますう～♪」

「やるう！」・・・「——え？ これって、もしかして—— 僕

の未来も見せることができるのか？」

「あなた様の未来をお見せすることは、できないでございますう～♪

先ほどの未来は—— わたくしの、将来、叶えて参りたい夢でござ
いますう～♪ 実現するかどうかは、まだ、わからないでございます
ますう～♪」

「そうなんだ」

「あなた様の未来—— あなた様の、将来、お叶えになられたい夢
を拝見いたしたいでございますう～♪」

「え？ それは——」 それまで、あまり深くは考えていなかった
けれど—— 漠然とだけれど、あった。「——ああ、やっぱいいや。
恥ずかしいや」

「いえいえ、ぜひどうぞでございますう～♪——」

「——。 ——。 ——。 何か、こう—— 心地よくて、うれしくて、
おいしくて——」・・・「——そう！ フルーツのような何かを
生み出すこと？」

それは、誰かの心からの笑顔かもしれないし—— 何かの作品か
もしれないし—— 何かについての誰かの活躍かもしれないし——
そんな—— そんな感じの——」・・・「——あれ？ 何、言っ
ているんだろうね？」

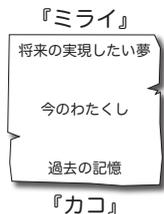
「素晴らしいでございますう～♪ 楽しみでございますう～♪」

コンパスは、真剣に受け止めてくれたんだ。

音楽フェード・アウト ♪ Soaring Up Into The Sky

38

過去の記憶を見つめる、今のわたくしを見つめる、将来の実現したい夢を見つめる—— それぞれの“ライフのあり方”が『カコ イマ ミライ』に対応しているのは明白だった。



その後も、新しいプチ・マップの作り方が、次々と見つかった。

『カコ』

思い出が大切
思い出のために
過去を見つめたい
過去志向
回想、回顧、反省
後ろ向き
過ぎ去ったことを
楽しかった思い出
宝探しをした
した
いた
あった

『イマ』

今が大切
今のために
今を見つめたい
現在志向
現状
横向き(?)
今、この瞬間を
今、楽しい
宝探しをしている
している
いる
ある

『ミライ』

将来の夢が大切
将来のために
未来を見つめたい
未来志向
予想、予定、期待、希望
前向き
これからのことを
あとのお楽しみ
宝探しをするだろう
するだろう
いるだろう
あるだろう

...

39

写真のアルバムを久しぶりにめくっていたのは、梅雨明け待ち遠しい、ある雨の日だった。
留守番中の家の外では雨音が絶え間なく響き渡っていた。

音楽イン ♪ Birthtime

赤ちゃんのときの自分の写真——

産まれて間もなく、ほっとしている母に抱かれている写真
ふとんの中でぬくぬくしている写真
ニコニコしながらベビー歩行器を乗りまわしている写真

幼児期の自分の写真——

あまりに小さい頃に亡くなったので、全く記憶に遺っていない
“父方の祖父”が見守っているそばで三輪車に乗っている写真
誕生日のお祝いケーキをしげしげと見つめている写真
記念撮影の際、兄にこちょこちょされて笑っている写真
子犬時代のランプベリーの抱きかかえながら笑っている写真

小学生のときの自分の写真——

登山のゴール地点で父母と一緒に笑っている写真
サッカーのユニホームを着て、ポーズを決めている写真
卒業式の日の、先生や友人たちと一緒に写っている写真
...
——これらの写真は、僕の過去だ。

それから、心の中に思い浮かべた。

自転車に乗れるようになって、大喜びした思い出——

祖母の家に遊びに行き、すべてが楽しかった思い出——

家族みんなで海水浴にでかけ、ワクワクドキドキした思い出——

夏休みに、とても早起きして、ノコギリクワガタのオスを捕ることができて、大喜びした思い出——

ランプベリーが、子犬を3匹産み、とても不思議な気持ちになった思い出——

…

——これらの心の中の思い出も、僕の過去だ。

次に、別のアルバムのページをめくり始めた。

おじさんに似ている堂々としている“母方の曾祖父”の肖像画の写真を見つけた。70歳代くらいだろうか——。

… ——将来、僕もこうなれるかな。

若くして戦死してしまった“母方の祖父”の当時の白黒写真を見つけた。

母の今の年齢よりも、ずっと若い。… まだまだ、いろいろやってみたかったことがあっただろうに——。…

母方の祖父は、やっぱり、どこことなく母に似ているよ。

母の名は、母の誕生を戦地で知った祖父が、戦地から送った手紙の中で希望していた名前だったと、祖母が話していたっけ。…

また、別のアルバムをめくり始めた。

すると、今度は、父と母が結婚して間もない頃の写真を見つけた。

この頃、兄も僕も、まだ存在していなかったんだ。

なんだか不思議な感じ—— ……

——うん。今から10年前に、僕は存在していたけれど——

15年前には、僕は明らかに存在していなかった。

音楽フェード・アウト ♪ Birthtime

40

自分の部屋に移動した僕は、ベッドの上で仰向けになった。

それから、天井を眺めながらぼんやり考え続けた。

100年前はどうだった？

——うん。もちろん、僕は存在していなかったし、同時に、おばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、兄ちゃん、ランプベリー、岬のおじいちゃん…も含めて、“現在100歳未満の人や動物”は、存在していなかった。

1万年前は？

——“現在生きている人間や動物”の個体だけでなく、その社会も存在していなかっただろう。

何億年も前の、恐竜が繁栄していた頃には？

——“現在げんざい生いきている人間にんげんや動物どうぶつ”の種しゆの多おほくも存在そんざいして
 なかったらう。

何なんじゅうおくねん十億年まえも前ちきゅうの、地球うが生まころれてすぐの頃ころには？

——きちきゅうじょうと、地球せいめい上そんざいにどんな生命そんざいも存在そんざいして
 いなかったらう。

さらまえに前ちきゅうには、地球たいようも太陽そんざいも存在そんざいして
 なかったらう。

これこれって、どういどううことことなののだらう？

このこのことことは、何なにをい意味みしているのだらう？

．．．

41

逆ぎゃくに、未み来らいは？

ああした
 明日あしたは？

——たたぶぶん、まあめた雨あめだらう。

．．．

来らい週しゅうは？

——おおそそらく、もつゆあう梅雨つゆあ明けあけしているのだらう。

．．．

来らい月げつは？

——きなつやすと夏なつやす休まみの真まっ最さい中ちゆうだ。

．．．

来らい年ねんは？

——きちゅうがくと中ちゅうがく学ねんせい3年ねんせい生せいだ。

．．．

10年ねんご後ごは？

——どうどうななっているのだらうののだらう？

．．．

100年ねんご後ごは？

——自じ分ぶん、おおばああちゃん、父とちゃん、母かあちゃん、兄にいちゃん、ラン
 プベリみまー、岬ふくのおおじいいちゃん…も含いめて、“現げん在ざい生せいきている人間にんげん
 や動物どうぶつ”の個こ体たいの多おほくは存在そんざいして
 いないのだらう。

．．．

1万まんねんご年ご後ごは？

——“今いま生いきている人間にんげんや動物どうぶつ”の個こ体たいだけだけでなく、社しゃ会かいも存在そんざい
 していないののだらう。種しゆとしてそんざいは存在そんざいしているのだらうけれど——。

．．．

100万まんねんご年ご後ごは？

——人にんげん間どうぶつや動物しゆの種ちきゅう、地球ちきゅうは、どうどうななっているのだらうののだらう？

．．．

1億おくねんご年ご後ごは？

——動どう植しよく物ぶつや地球ちきゅうや太陽たいよう系けいは、どうどうななっているのだらうののだらう？

．．．

100億おくねんご年ご後ごは？

——生せい命めいや太陽たいよう系けい、銀ぎん河が系けいや宇う宙ちゆうは、どうどうななっているのだらうののだらう？

．．．

42

これらの^{かんが}考えが^{いみ}意味していることは――

遠い^{とお}将来は、今^{いま}ここに誰^{だれ}が存在^{そんざい}していようが^{かんけい}いまが関係なく、

結局^{けつぎよく}、何も^{なに}変わらない^かってこと？

将来^{しょうらい}はいずれ、かつて^{だれ}誰も^{そんざい}が存在^{ころ}していなかった^{おな}頃と同じ^{じょうたい}状態に

戻^{もど}るってこと？

・・・

将来^{しょうらい}、いずれ^{ほく}僕はいなくなる――。

ただ、僕^{ほく}がいなくなる^{まえ}前に――

岬^{みさき}のおじいちゃんがいなくなってしまう？

ランプベリーもいなくなってしまう？

いや、それどころか、^{あとさきかんけい}後先関係なく―― ^{だいす}大好きな^{だいす}祖母、^{だいす}大好き

な^か家族、^{だいす}大好きな^{ともだち}友達、^{だいす}大好きな^{せんせい}先生、お^{せわ}世話^{かたがた}になっている^{かたがた}方々…

も^{ふく}含めて、みんながみんな、いずれいなくなってしまう？

それらのシーンを、ありありと^{そうぞう}想像していたら―― ジワジワと
涙^{なみだ}が^こ込み^あ上げてきた。涙^{なみだ}があふれて、あふれて、と^と止まらなくなった。

・・・

いったい、どこが^{わく}ワクワク^{わく}粋なの？

これじゃ、まるで^{わく}クヨクヨ^{わく}粋じゃないか――。

これじゃ、どこが“フレー！ フレー！ フレーム”^だだかも、さっ
ぱり、わからないよ。

・・・

家^{いえ}の外^{そと}では、相^{あい}交^かわらず、^{あまおと}雨音^たが^ま絶^{ひびき}え間^{わた}なく響^{わた}き渡^{わた}っていた。

43

夏^{なつやす}休みのある^は晴^ひれた日、木^こ陰^{かげ}で、小^お川^{がわ}の冷^{つめ}たい水^{みず}の流れ^{なが}に足^{あし}を浸^{ひた}

しながら^{あおむ}仰^{あおむ}向けになっていた。

そばで^{ひる}昼^ね寝^ねしている^{ランプ}ランプベリー。

岸^{きしべ}辺^べには、多^{おほ}くの^さヒマワリ^{ほこ}が咲^さき誇^{ほこ}っていた。

た^{たんじゅつびき}んじゅつ^{ちからいっばい}もの^なセミ^なたちが^{おも}力^{おも}一杯^{せんりつ}鳴^ないていた。その^{おも}思^{おも}い^{せんりつ}思^ないの^{せんりつ}旋^{せんりつ}律^な
が^{しゅうへん}周^{あつ}辺^りに^{ひびき}熱^{わた}く響^{わた}き渡^{わた}っていた。

木^この^は葉^はの^{いま}今^はは――

目^めの前^{まえ}で、豊^{ゆた}かに生^おい茂^{しげ}っている^{あお}青^ぼ葉^は。

木^この^は葉^はの^か過^こ去^はは――

心^{こころ}の中^{なか}の、う^{みどり}す^{しんりよく}緑^{ろく}の新^{しん}緑^{りよく}。

木^この^は葉^はの^{みらい}未^み来^{らい}は――

心^{こころ}の中^{なか}の、あ^{あか}か^{こうよう}い^{よう}紅^{こう}葉^{よう}。

ヒマワリ^{いま}の^{いま}今^はは――

目^めで^み見^{まん}ている、満^{まん}開^{かい}な^{すがた}姿^{すがた}。

ヒマワリ^かの^こ過^こ去^はは――

心^{こころ}の中^{なか}の、ひ^{ひと}と^{つぶ}つ^{たね}ぶ^{たね}の^{たね}種^{たね}。

ヒマワリ^{みらい}の^{みらい}未^み来^{らい}は――

心^{こころ}の中^{なか}の、種^{たね}を^みた^みく^みさん^{すがた}実^実らせている^{すがた}姿^{すがた}。

セミ^{いま}たち^{いま}の^{いま}今^はは――

木^きにと^{ちから}ま^{ちから}り、力^{ちから}い^なっぱい^な鳴^ないている^{すがた}オス^{オス}などの^{すがた}姿^{すがた}。

セミたちの過去は——

心の中の、何年間も土の中で過ごしている幼虫の姿。

セミたちの未来は——

心の中の、木の皮に卵を産みつけているメスなどの姿。

僕の今は——

ここで小川に足を浸している姿。

僕の過去は——

心の中の、赤ちゃんとして親に抱かれている姿。

僕の未来は——

心の中の、親として赤ちゃんを抱いている姿？

小川の水の今は——

僕の足を冷やしている水の流れ。

この小川の過去は——

心の中の、空に浮かんでいる雲。

この小川の未来は——

心の中の、空に浮かんでいる雲。

——アレ？

おじいちゃんの今は——

心の中の、昼寝している姿。

おじいちゃんの過去は——

心の中の、昼寝している姿。

おじいちゃんの未来は——

心の中の、昼寝している姿。

——アレアレ？

とにもかくにも、どの対象においても、それぞれの3つの見方が、『カコ イマ ミライ』で示される“ライフのあり方”に対応しているのは変わらないだろう。

何十匹ものセミたちの大合唱は、相変わらず、夏を演出しながら熱く響き渡っていた。

44

例えば、過去は…と考える人生、今は…と考える人生、未来は…と考える人生が、『カコ イマ ミライ』によって示される3つの“ライフのあり方”に対応しているのは明白だった。

『ミライ』



『カコ』

ほかにも、いろいろなプチ・マップの作り方が次々と見つかった。

『カコ』

かつては…
 昨日は…
 先週は…
 先月は…
 去年は…
 10年前は…
 前世紀は…
 先の千年は…
 先の1万年は…
 先の百万年は…
 先の1億年は…

『イマ』

今は…
 今日…
 今週は…
 今月は…
 今年は…
 この10年は…
 今世紀は…
 この千年は…
 この1万年は…
 この百万年は…
 この1億年は…

『ミライ』

将来は…
 明日は…
 来週は…
 来月は…
 来年は…
 次の10年は…
 次世紀は…
 次の千年は…
 次の1万年は…
 次の百万年は…
 次の1億年は…

・・・

45

夏休み最終日、ランプベリーを連れて、海の砂浜まで散歩した。

波打ち際を駆け回っているランプベリー——。

腰を下ろしたまま、海と水平線と空を眺めている僕——。

思えば、去年の宝探しのとき、おじいちゃんに差し入れてもらっ

た、いちご—— むちゃくちゃおいしかったなあ。

今年の、お土産のいちごもおいしかった。

いちごって、どうしてあんなにうまいんだろう？

・・・

それにしても、おじいさんの過去は——

・・・ かわいそうすぎるよ。

「——ハア——」 ため息が出た。

それから、自身の過去について、あれこれ思いめぐらせ始めた。

——僕の過去は、一体、何だったのだろう？

小さい頃から、ランプベリーに加え、5歳年上の兄とも、いっぱい遊んでいたっけ——。

キャッチボールをしたり、サイクリングしたり、魚釣りに行ったり、オセロをしたり、トランプをしたり、人生ゲームをしたり…。

カブトやクワガタを捕るために、橋の街灯ポイントに初めて行ったときも、兄と一緒にだった。

ザリガニ釣りに初めて行ったのも兄と一緒にだった。

サッカーのキックの仕方を初めて教わったのも兄だった。

将棋の駒の動かし方を初めて教わったのも、ルービックキューブを初めて教わったのも兄だった。 …

その兄は、学年が上がり、受験勉強が忙しくなるにつれ、あまり

僕と遊ばなくなった——。

その代わりに、ランプベリーに加え、小学校のクラスメイトと遊ぶ頻度が増えたっけ——。

河原で冒険ごっこをしたり、ザリガニ釣りをしたり、学校近くの山の上のアスレチック・コースに行ったり、遊びでバドミントンをしたり、ローラースケートをしたり、友達の家でゲームをさせてもらったり…。

——これらも楽しかったなあ。

月刊雑誌の懸賞に何度か応募して、結果をすごく楽しみに待っていたこともあったっけ——。唯一当たったのは、残念賞の「ドラえもんシール」だけだったけれど——それでも、うれしかったな。今も大事に宝箱にしまってあるっけ——。

それから、今から思えば、どうでもいいようなことに、妙に一生懸命になっていたな。

例えば、新パ——牛乳びんの新しいふたをメンコにした遊びが流行したときには、牛乳の会社に、せっせと手紙とともに返信用の封筒を送り、新パを送って頂いたっけ——。牛乳の会社の方は、どんな気持ちで新パを送ってくださっていたのだろう？

例えば、5、6年生のときの担任の先生に出す年賀状のデザインを、あれこれ考えに考えて練り込んでいたこともあったっけ——。別に、それを目指していたわけじゃなかったけれど——その年賀状が、2年連続でクラスの人気投票で1位に選ばれたのは、理屈抜きで、うれしかったなあ。クラスメイトは、どんな気持ちで投票してくれていたのだろう？

...

46

ただ一方で—— つらいこと、いやなこと、ヒヤヒヤすること…も、あったっけ——。

音楽イン ♪冬 Winter

小学校のとき、給食の時間だけは、ほとんどが苦しみだったな。

多くの人たちにとって、楽しみであったらうけれど——。

中学から弁当に変わって、大助かりだよ。母ちゃんには申し訳ないけれど——。

せっかく給食を作ってくださっていた方々にも申し訳ない話だったけれど、今は、ある程度減っているけれど——小さい頃、口に入れてかむだけで吐きそうになってしまう苦手な食材が多く、給食に、そういった苦手な食材が含まれることがほとんどだった分、給食の時間は、自分にとって、ほとんどが苦難タイムとなっていた。

小学校のとき、人前で発表も、すごく苦手で、しんどかったっけ——。顔が赤くなっていたし、“照れ屋さん”とクラスメイトに称されたこともあったし——。人前で発表するのは、今も苦手だよ。

...

小学校のとき、忘れられないヒヤヒヤする出来事もあったっけ。

「——ハア——」 思い出そうとするだけでも、ため息が出るよ。

その土曜日、町内のソフトボールチームの練習にでかける直前、父に呼び取められ、“車との事故に気をつけるんだよ”と注意された。

自転車で行く途中に左右の見通しの悪い交差点があった。

ただ、当時の大バカだった僕は、その三角の止まれの標識があった交差点で、いつしか、なぜか自転車で“止まらずにつっきる遊び”をするようになっていた。

一度、それで成功していたので、その日も上手くいくだろうと思いい、同じように、つっきろうとした。

ところが、その日、交差点に進入し始めた直後、自転車の直前を、減速するはずのない乗用車がビュー！！と横切った。

全身が凍りつき、心臓が止まりそうになった。

二度と、そんなバカな遊びをしなくなった。

本当に大バカだったな。

「——ハア——」——なぜ、あんなに大バカだったのだろうか？

もし、あの日、父ちゃんが僕を呼び取めて“車との事故に気をつけるんだよ”と注意してくれた数秒のタイムラグがなかったら、きっと、自動車にひかれて、いのちを失っていたんだらうな。

当然、今の自分は、いなかっただらう。・・・

「——ハア——」 本当にヒヤヒヤするどころじゃないよ。・・・

やっぱり、父ちゃんが僕を守ってくれたことになるんだらうな。

・・・

この愚行を思い出すたびに、父への感謝の気持ちを抱くだけでなく——しばし、申し訳ない気持ち、後悔、自己嫌悪…に打ちのめされるのが常だった。

バカなことだけじゃない。

失敗したこと、恥ずかしかったこと、かっこ悪かったこと、人を振り回してしまったこと、人に迷惑をかけてしまったこと、人を悲しませてしまったこと…多々ありすぎだよ。

「——ハア——」 ため息が出た。

いったい、僕の人生、何だったのだらう——。

なんで、こう、愚かで、情けなくて、めみっちいのだらう？

・・・

少なくとも、あとさき考えずに、自分のことしか考えずに、浅はかなことをしてしまう自分は、卒業したいよ。

このままじゃ、いやだよ。

・・・

音楽フェード・アウト ♪冬 Winter

ふいに、腕にぬくもりを感じた。見ると、ランプベリーが寄り添って来ていた。

そんな嘆かわしい“過去の自分”からの脱却を望み始めていた僕を、ランプベリーが優しく励ましてくれていたように感じた。

47

ランプベリーに寄り添われながら、しばらくの間、流れる雲をぼんやりと眺めていた。

すると、突然、ある雲の集まりに目が釘付けになった。

あれは、バナナに見えるなあ。あ！あれは、りんごに見える！あれは、みかんだ！・・・

そのときだ。“フルーツのヨーグルト和え”が給食に出たときのことを思い出したのは——。

そういえば、“フルーツのヨーグルト和え”が出た給食の時間だけは、最高だったなあ。

それは、苦難に満ちた小学校の給食の時間の例外だった。年に数回“フルーツのヨーグルト和え”が出たときだけは、それが大好きだったからだけでなく、たいてい苦手な食材が全く伴っていなかつ

たので、なおさら、稀少で、ありがたい、幸せタイムとなっていたのだった。

——ああ、おいしかったなあ。また、食べてみたいよ。

おじいちゃんの、あのおいしいいちごも、また食べたいなあ。

そういえば、食後のデザートに母が出すフルーツもおいしい。

・・・

フルーツって、何で、あんなに、おいしいのだろう？

ああ、フルーツのような何かを生み出す将来の夢は、このような体験の影響もあって、生まれていたのだろうなあ。

・・・

僕は、やっぱり、フルーツのような、おいしい何かを育てたい。ときに、満ち足りた気持ちにもなれるような、ときに、生き返るような気持ちにもなれるようなフルーツのような何か——。

それに、みんなに喜ばれるフルーツのような存在になりたいよ。

・・・

——そうだ！

僕は、あのときの“フルーツのヨーグルト和え”のような何かを育てたい。あのときの“フルーツのヨーグルト和え”のような存在になりたい。

ライバルは、あのときの“フルーツのヨーグルト和え”だ！

それに、あのときの、いちごのような何かも育てたい。あのときの、いちごのような存在にもなりたい。

ライバルは、あのときの、いちごだ！

48

夏休みが終わると、秋と冬が駆け足で過ぎ去り——

予想通り、雪解けの季節に、コンパスとの別れを迎えた。

音楽イン ♪春 Spring

今回は、コンパスが別れのタイミングをしっかりと察知できたおかげで、きちんとあいさつできた。彼の任期は3年であり、次の第3フレームで彼の担当は終了するとのことであった。

音楽フェード・アウト ♪春 Spring

そうして迎えた中学3年の初夏——

音楽イン ♪夏 Summer

「おお！ 予想以上に、背が高くなっておるのお。さすが少年じゃ」
「フッフッフ。追い抜くのも時間の問題だぜ」僕の身長は、おじいさんと、ほぼ同じくらいになっていた。

しっぽを振りながら、お座りしているランプベリ——。

僕は、おじいさんに、この1年で考えたこと、感じたこと、やったこと——それから、小さい頃の思い出や将来の夢も含め、いろいろ話して聞かせた。

「ほう。おまえさんも、将来、農業をやるのか？」とおじいさん。

「ん？ そりゃあ、確かに農業も大事だし、魅力的だと思うよ。ただ、僕の場合、それをどうやって生み出すかは、まだはっきりわからなくて——何ていうか、こう——おいしくて、満ち足りた気持ちにもさせてくれるような——エネルギーを蓄えさせてくれるような——生き返るような気持ちにもさせてくれるような——

フルーツのような何かを生み出すっていうか—— フルーツのよう
な存在になるっていうか——。

「アハッ。やっぱり漠然としていて非現実的だよね」

「ううん、そんなことはないよ。すばらしいビジョンじゃよ」

「——あ、ありがとう。」

フルーツのような何かを、どうしたら生み出せるのか。どうした
らフルーツのような存在になれるのか。それらを自分らしく達成す
るために、どのような道を選ぶのがよいのか。その未来像を実現す
るために、具体的に何をどうすればよいのか。…

これらの答えは、まずは高校に入って、それから見つける予定さ」

「——うむ。見つかるといいのお。楽しみにしておるよ」

「ありがとう」

音楽 ♪夏 Summer 49 に続く

49

ランプベリーは、いつしか昼寝を始めていた。

「——で、おじいちゃんの将来は？」 僕は、軽い気持ちで尋ねた。

「——。 ——わしやあ、死ぬだけじゃな」

48 から続く音楽 急遽中断 ♪夏 Summer

「——」 ……

しばし沈黙が流れた——

かと思うと、おじいさんは再び口を開いた。

「——というのは、冗談じゃ。」

音楽イン ♪心地よき日々 Comfortable Days

こう見えてもな、わしにも、たーんと将来の夢や目標がある。

内容は、秘密じゃがの」 おじいさんは、ゆったり心笑んだ。

「——」

「それに、わたしには、すてきな思い出たちもある。

それに、わたしには、幸せな今もある——」 満足そうな笑みを浮かべているおじいさん。「みんな大好きじゃ。みんな——」 おじいさんは、そのまま、座った姿勢で目を閉じた。

「スー —— スー —— スー —— …」 かすかに寝息をたてているおじいさん——。僕は、おじいさんが自然に目を覚ますまで、ぼんやりと水平線の彼方を眺めていることにした。

音楽 ♪心地よき日々 Comfortable Days 50 へ続く

50

「——あ？ すまん、すまん。思わず、夢の中に入り込んでしまうたわい。やっぱり、もう年じやのう。アッハッハッ！」

「——。 おじいちゃんの人生—— これからも、長いんだかね？ これからも、ずっと—— ずっと——」

「——」 おじいさんは、何も言わずに再び目を閉じた——

かと思うと、口を開いた。「——サンキュー」

ひこうきぐも
飛行機雲のラインが、おおぞらたか えが
大空高く描かれているようす
様子が見える——。

おも
「思ったんだけどさあ、7つのフレーム・フォー・オール・ライフ
——7つのワクワク枠って、けっきょく なん
結局は何のためになるの？

——ゴールは、いったい何？」 そつちよく たず
率直に尋ねてみた。

「——。 ——ん？ まえ はな
前に話さなかったっけ？」とおじいさん。

「え？ ——き
聞いたっけ？」

「——まあ、いずれにせよ、そいつは、いや、そいつも——

おまえさんに任せるのが一番よいじゃろう」

「——。 ——どうして？」

「——。 はて、どうしてかな——」

「——」 . . .

「——うむ。では、そろそろ、だい
第3フレームについてせつめい
説明しようか
の」

「ああ、ほい来た」 ぼく
僕は、おじいさんにちず てわた
地図を手渡した。

音楽終了 ♪心地よき日々 Comfortable Days

7つのワクワク枠 / The 7 Frames For All Life

となりのコンパス②

第2フレーム

『カコ イマ ミライ』

【完】